



第7回北東アジア三カ国官民対話 (7th TDNA)

世界平和研究所は、2012年9月24日、25日の両日、外務省平成24年度国際問題調査研究・提言事業費補助金および日本財団の助成を受け、キャピトル東急ホテルにおいて、韓国外交安保研究院 (IFANS) と米国平和研究所 (USIP) との共催で、「アジア太平洋回帰と同盟の強化: 第7回北東アジア三カ国対話(7th Trilateral Dialogue in Northeast Asia Meeting)」と題する国際会議を開催した。



本会議は、国際情勢、外交、安全保障等の幅広い分野について、日米韓三カ国が対話を深めることを目的として、2008年から開催されており、今回の東京での会合は7回目となる。24日から25日午前中にかけて開催されたクローズド・セッションでは、日米韓各国の外務・防衛の政府関係者・専門家など約40名が参加し、米国のアジア太平洋回帰とその影響、北朝鮮新体制の行方、国内政治と日米韓協力を議題として、活発かつ有益な意見交換が行われ、グローバル化する世界の中で、日米韓三カ国が今後どのような協力を行っていくべきかについて、具体的な政策アイデアの創出が話し合われた。

それに続いて25日午後には、「2012年の政権選択と外交: 日米韓関係への影響」をテーマに公開シンポジウム (司会: 佐藤謙・当研究所理事長) が開催された。シンポジウムでは、仙谷由人衆議院議員 (元官房長官) による基調講演の後、風間直樹参議院議員、鄭義溶アジア政党国際会議共同委員長 (元韓国国会議員)、Kurt Tong 在日米国大使館首席公使、北岡伸一政策研究大学院大学教授、の各氏をパネリスト (発表順) として活発な議論が行われた。

本会議・シンポジウムの模様は、読売新聞、日本テレビ、韓国中央日報、韓国聯合ニュースなどで報道された。

